

## うたがわよしいくがとうかいどうごじゅうさんつきこっけいすごろく 歌川芳幾画「東海道五十三次滑稽双六」

「やじきた」で知られる、十返舎一九の滑稽本『東海道中膝栗毛』をモチーフにした双六です。縦約50cm、横約72cm、木版多色摺の技法で製作されています。手がけた絵師・歌川芳幾(落合芳幾)は歌川国芳の門人で、幕末・明治期に活躍しました。

このような、旅をモチーフとする双六は「道中双六」と呼ばれ、実際に旅をしている気分が味わえる仕掛けがされています。例えば、この双六は日本橋を振り出し、京を上がりに、途中の五十三の宿場をマスとしており、「箱根に振り当てれば手形を忘れ日本橋へ帰る也」、つまり「箱根」のマスに止まったら、「手形(身元証明書)を忘れた」という設定で振り出しに戻るルールになっています。

江戸時代、箱根には関所が置かれ、一般の旅人が通る際には、関所手形・往来手形が必要でした。関所破りは重罪とされており、無事に通過できた多くの旅人が「山祝い」と称して、酒を飲んでいました。その関所を越える緊張感が、双六にも盛り込まれているのです。

また、この双六は『膝栗毛』のストーリーをなぞって、江戸から京へ向かう設定になっていますが、同じ東海道の双六でも、上方の版元から出されたものの多くは、京を出発する道順をたどっています。これも遊

ぶ人にとって、よりリアルな旅のルートであるためと思われます。江戸時代には、治安の安定、統一貨幣の流通、そして出版文化の隆盛などを背景に、レジャーとしての旅が庶民の間にも広まりました。『膝栗毛』などの書籍や、歌川広重「東海道五十三次」などの浮世絵は、木版摺で大量に作られ、比較的安価で流通したため、多くの人が遠くの土地のことを知れるようになったのです。今の私たちがインターネットや雑誌を見て「旅行に行きたい!」と思うのと同じような気持ちで、江戸時代の人たちも書物や絵画を通じて感じていたのかもしれない。



▲東海道五十三次滑稽双六(部分) 歌川芳幾 万延元年(1860)

### 草津スケッチ

市内で行われた各種イベントなどを紹介します。YouTube「くさつチャンネル」でも配信! 8月は「草津市飲食店応援チケット」です。  
びわ湖放送(BBC) 第2・4 金曜日 18:55~19:00



YouTube  
「くさつチャンネル」の過去の放送はこちらから



### えふえむ草津 (FM78.5MHz)

えふえむ草津(FM78.5MHz)では、災害時など、もしもの時でも、情報を発信しています。新型コロナウイルス感染症に関する情報もお知らせしています。緊急時や、市からの最新情報を知りたいときの情報源として、ご活用ください。

#### 防災・防犯・安全

ハッピー ボウサイ  
**Happy BOUSAI**

関西大学社会安全学部の学生と危機管理課がコラボして、暮らしの安全・安心に役立つ情報を発信する防災トーク番組です。8月は「食物アレルギー」と「分散避難」です。  
第1・3 火曜日 12:00~、20:00~、25:00~

#### 地域・市民・行政

暮らしやまちの話題、健幸情報などをお知らせします。

#### 観光・文化・芸術

観光ボランティアや文化施設などと連携して、歴史や文化、音楽、講座などの情報をお届けします。

#### 声の広報

広報くさつの内容を、広報課やえふえむ草津のパーソナリティなどが読み上げます。

第1・2 金曜日 12:00~、20:00~、25:00~

再放送や、オンデマンドでも配信されていますので、時間を選ばず、ご利用できます。



市政広報番組

